

意外と知らない

の話

川西市医師会ホームページ  
<http://www.kawamed.or.jp/indexpc.html>

大腸がん（直腸がんを含む）の死亡数は年々増加しており、がん死亡順位が女性で第1位、男性で第3位となっています。

大腸がんの原因としては、食生活やライフスタイルの欧米化が指摘されていますが、運動などの身体活動が大腸がんの予防に有効であるといわれています。

また、便潜血検査による大腸がん検診は大腸がん死亡を減少させる効果があることが分かっていますが、自覚症状がないまま便潜血陽性で発見された大腸がんの中には、不幸にも死に至るケースや手術またはそれ以上の治療（抗がん剤など）を要するものがあります。

これは、肛門から遠い体の右側の大腸に発生したがんや平たい形の（平坦型）がんは便潜血陽性となりにくく、早期発見が遅れることがあるからです。

そこで、もし内視鏡治療が可能な段階で大腸がんを見つきたいのであれば、まずは大腸内視鏡検査を受けることです。

大腸内視鏡検査は1回受ければ大腸がんのほとんどを発見することができ、また大腸がんは発見さえすれば救える可能性が高いことから、50歳以上でまだ大腸内視鏡検査を受けたことがない人は、ぜひ一度、大腸内視鏡検査を受けるよう強く勧めます。

（市医師会 北田学利）

**大腸がんは早期発見が重要  
内視鏡検査を受けましょう**